

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書

令和2年 2月6日 作成

校長 平塚 克人

記述者 職名(教頭) 長田 理

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び、よく考える子ども (自分の考えを持って)
- 徳育 ・思いやりのある子ども (相手の立場を考えて)
- 体育 ・健康でたくましい子ども (生活の中に運動習慣を)

学校経営方針

※基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 PDCAサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

児童及び保護者また、職員へのアンケートを含む自己評価の概要は概ね次のようにまとめることができる。

- ・ 本年度の学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて具体的な方針と取り組みについて提案し、一人ひとりの教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより本校の総合評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- ・ それぞれの学年経営方針に基づいた適切な学年教育目標が設定され、その実現に向けて、適切な学年・学級経営が行われていると考えられる。
- ・ 学習指導については、概ね肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら基礎・基本の定着を図る授業を行っている様子がうかがえる。評価を意識した授業や、質問や発言が出てくる授業づくりなどについては、校内研究への積極的な取り組みを継続することで、職員の授業観が変化している様子がうかがえる傾向がある。
- ・ 生徒指導については、全体的に肯定的な評価になっている。キャリア教育については教育課程に位置づけてから数年が経過してきているが、その内容をきちんと踏まえた上で教科指導や生活指導を行っていくことが必要である。問題行動の早期発見・早期対応を心がけて日々児童の指導にあたったいるが、日頃からさらにアンテナを高くし、児童の良き相談者たるべき姿勢を持ち続けていきたい。
- ・ 本校のPTA活動や地域との連携について肯定的な評価が多く、学校側からも情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができているといえる。さまざまな場面で地域の方々にご協力いただいて貴重な体験をさせていただいているが、さらに内容を検討したり教材開発をしたりすることを日頃から心がけていきたい。保護者からの要望等の情報収集については、これからも受け身のみにならないような工夫が必要である。
- ・ あいさつや読書活動について児童会や委員会が中心となり取り組みを進めて定着してきている。また、これも児童会の取り組みだが、子ども達同士が様々な事柄の感謝を伝え合う「感謝の木」の取り組みは、全校児童の親和性を高めるとも素晴らしい取り組みで、毎日昼の放送で様々な言葉が放送され、ほのぼのとして温かい空気が学校を包んでくれている。
- ・ 体力向上への取り組みは、スーパー北小タイムで行った、ドッジラリー、たてわり遊びやなわとびなどの活動が全校に広がり、主体的に体を動かしている児童が多く見られる。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

II 学校運営について

- 達 ・ 校長の経営方針の下、一人ひとりが前向きな気持ちで教育活動を行ってきた。

成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 若手が多い学級担任を、学年や分掌の枠を超え、中堅やベテラン職員が様々な場面でOJTで支える職場環境が整っている。児童支援や学校運営上、成果を上げることが出来ていた。 職員数が年々減り、複数の校務分掌を受け持つなど、多忙化に拍車がかかる中、全体的には、意識を高くもって取り組んだ様子が表れている。 学級担任と非常勤講師・市支援員とが互いに協力し合い児童の実態に応じた個の指導を丁寧に行ってきていて、各学年とも成果が表れている。
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学級が単級であるために、学級担任の役割や校務分掌の負担が大きくなるとともに、他の教職員との連携や意見交換等がなかなか持ちにくい状況もある。しかし、終礼や職員会議等での情報交換及び様々な取り組みに向けての共通理解ばかりではなく、休み時間や放課後等の時間を活用し、管理職も積極的に職員とコミュニケーションを図ることで、情報の共有や各種方針の構築等に取り組んでいる。
Ⅲ 学習指導について（児童用アンケートの結果も含めて）	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が意識を高く持って、各教科の基礎基本事項の習得のための取り組みや家庭との連携に積極的に取り組んでいることがうかがえる。 授業改善について、校内研究や自主的な研修会への参加を通しての指導方法の向上を図り、日々の授業に生かせるように取り組んでいる。しかし、児童アンケートの結果、「授業で分からないことがあったら先生に聞く」の項目は、市の平均を上回ってはいるものの、以前から本校児童の課題であった。引き続き自分の考えをしっかりと話すことができ、分からないことをそのままにしておかない児童の育成を図っていくための授業改善を継続していく。校内研究を通して、子ども達が間違いを含め、自分の意見や質問などが普通に言える、むしろそのことが当たり前となるような授業を構築するための、教師のコーディネイト力養成が本校の課題である。そのことを職員間で共有しながら取り組んでいきたい。
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> 来年度、主体的・対話的で深い学びの研究指定が最終年の3年目を迎える。積み上げてきた授業改善に向けての成果をさらに積み重ねて、授業力の向上に取り組んでいくことが必要である。また、新たにプログラミング教育等の取組も本格化することから、持続可能な研究体制を引き続き構築して、職員一丸となり取り組んでいきたい。
Ⅳ 生徒指導について（児童用アンケート結果も含めて）	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは、生徒指導の内容の一部の例として、「あいさつをしているか」「将来の夢を持っているか」「決まりや約束事を守れているか」「清掃活動や委員会活動にしっかり取り組んでいるか」が取り上げられている。平均して約92%の児童がしっかり出来ていると答えている。また、保護者も同じ項目で約87%が肯定的に捉えている。 授業や行事などを通して、概ね良好な生徒指導が実践できていると捉えることが出来る。
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> 「規範意識を育む指導」「問題行動の早期発見・早期対応」については、引き続き職員間の共通理解を図りながら、全校体制で粘り強く取り組んでいく。 キャリア教育については、これからも、教育課程に位置づけられた全体計画を意識し、学年ごとの年間指導計画に応じ、学校教育全体で行われるようにしたい。 家庭や関係機関との連携がより図られるよう、情報の共有化とスピード化を意識しながら生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。
Ⅴ 地域との連携について	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートによると、約95%の保護者が、学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることが出来ると答えている。また、「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」では、約83%がそう思うとしている。本校はPTAOBの、おやじの会や母親の会の存在や現役のPTA会員の学校運営への意欲的な参画意識もあり、地域連携がより良く推進されていると捉えている。
改	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌や立場の違いで、保護者や地域からの要望や情報の収集の仕方も変わってくるので、学年部会や家庭訪問、個別懇談等あらゆる機会を利用し、情報を発信するだけでなく、PTA委員会、学年PT

善策	<p>A総会や地区懇談会などを利用して、保護者や地域の意見を聞くことにも力を注ぎたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学年だより、ホームページを使って、これまでどおり学校の教育活動を地域や保護者に知らせていく。また、これからも、引き続きホームページに日々の子どもの様子を載せられるよう努める。
VI 学校の特色に関して （児童用アンケート結果も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 約89%の児童が「読書が好き」と答えているが、読書量・質に個人差が見られる。「まったく読まない」と回答した児童が約4%いた。 児童アンケートの18「地域の人と出会ったらあいさつをしているか」では、肯定的な評価が9割に達している。学校では、あいさつ運動に取り組んできているが、積極的に言える子とそうでない子との差が出てきているのも事実である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 読書に関しては、引き続き、図書だより等で保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。特に、夏季休業中に「親子読書」等の取り組みを継続していく。 あいさつに関しては、PTAの集まり、授業参観、地区懇談会等の、地区や保護者対象の会議の折に「声かけ・あいさつ運動」の推進をお願いしてきている。引き続き、あいさつ・声かけ等を地域・保護者と共に協力して行っていく。 児童会の「あいさつ運動」と連携して継続して指導し、登下校時にも挨拶する習慣をつけていく。
<h3>3 まとめ</h3> <p>〈成果〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本年度は、校内研究の主題に『豊かな心をもち、主体的に学ぶ子どもの育成』を掲げ、2年目の取り組みを進めてきた。今年度は、サブテーマとして、「対話的な学習活動を通して、深い学びにつなげる」を設定し、研究に取り組んできた。研究の過程で、子ども達がそれぞれの学習課題に対して、自分の考えを持ち、それを伝え、友だちの意見を聞き、自分の考えと比較したり深めたりすることが出来る授業の構築について、特に若手の学級担任が、授業構築における重要な要素である「コーディネート力」の養成が非常に大切であるということを共有できつつあり、大きな成果と言える。ただそのことはまだまだ道半ばで、児童アンケートでは「授業中に質問や意見を言っている」の項目でA評価とB評価を合わせて60%にとどまっている。C評価とD評価を合わせて約39%の児童が消極的である。今後も、これまで取り組んできた「豊かな表現力の育成」の指導に引き続き取り組んでいく。また、前述したように授業実践の中から成果と課題が見えてきたので来年度の研究課題として研究を深めていく。次期学習指導要領の中で取り上げられている「主体的・対話的で深い学び」のできる児童の育成を目指して、引き続き授業改善を行っていく。また「豊かな表現力の育成」についても引き続き取り組んでいく。 ② 現段階では、不登校、不登校傾向の児童が数人いるので、きめ細かな生徒指導を行い、「楽しい学校づくり」を推進していく。特に「クラス（学年）に仲良く遊ぶ友達がいない」「困ったときに相談できる友達がいない」と回答した児童が少数ながら存在することから、日々の観察から得た情報とともに「Q-U検査」等の結果も参考にしながら学級経営をしていく。「Q-U検査」等の結果から、個別面談（児童）を実施して一人ひとりの児童の気持ちや人間関係などを担任が把握する。クラスの中でお互いを認め合い、励まし合える仲間づくりを進め、居心地のいいクラスで学校生活を送れるようにする。 ③ 保護者アンケートや教職員アンケートから、学校・保護者・地域の連携意識の高さが今年も読み取れる。子どもを中心において、本校が掲げる教育理念をそれぞれの立場で共有し、協働して子どもの育成をしているこの伝統を今後もぜひ発展継続していきたい。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、今回、自己評価の低かった項目、特に、「規範意識をはぐくむ指導」「生き方教育を児童の実態に応じて行う」「問題行動の早期発見・早期対応」「地域の教育力を活かす指導」について、問題意識・教育専門職としての自負を持ち、学校組織として年間を通した取り組みを行っていく。 	